アイランドシティはばたき公園　基本計画（整備プラン）〔概要版〕

1. 背景

福岡市は，博多湾東部におけるアイランドシティ周辺の海域・海岸域（約550ha）を「エコパークゾーン」と位置づけ，自然環境の保全・創造，地域の生活環境向上に向けて様々な施策を展開しています。

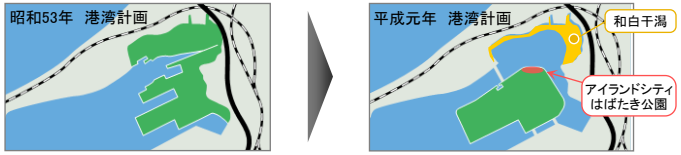
本公園（約12ha）は，エコパークゾーンの中心に位置し，和白干潟や海域等と機能分担しながら，人と自然との共生を象徴する空間として整備を行います。

2. これまでの取組み

(1) 主な検討経緯

平成元年　港湾計画改訂

・和白干潟等の自然環境保全のため，埋立計画を島形式に変更



平成4年　アイランドシティ基本計画

・アイランドシティにおける本公園の整備と，エコパークゾーンを位置づけ

平成9年　エコパークゾーン整備基本計画

・有識者からの助言を踏まえ，エコパークゾーンで実施すべき環境保全創造施策をとりまとめ

平成18年　福岡市野鳥公園基本構想

・有識者等から，本公園の基本的な方向性について市長へ提言

平成22年　エコパークゾーン環境保全創造計画

・有識者等から，エコパークゾーンで今後講ずべき施策について提言

平成24年度～　基本計画策定に向けた検討

基本コンセプト，活動プラン（ソフト）	整備プラン（ハード）
「野鳥公園ラウンジカフェ」（H24～25年度に8回開催） ⇒ 市民との対話（延べ321人が参加）	「野鳥公園整備に関する検討委員会」（H25～26年度に5回開催） ⇒ 専門的見地からの意見・助言

(2) エコパークゾーンにおける主な取組み

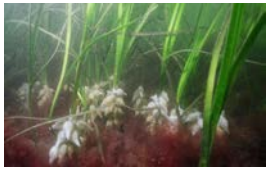
○覆砂（ふさ），作澪（さくれい）

海底に堆積した泥を良質な砂で覆う「覆砂」や，海底に水の通り道となる溝を掘る「作澪」など，水質・底質の改善を実施しました。

覆砂（ふさ），作澪（さくれい）による水・底質改善
（御島海域）

○アマモ場造成

海中に酸素を放出するとともに，魚介類の産卵場や生息場になるアマモ場を造成し，生きものの住みやすい環境を創出しました。



造成したアマモ場とコウイカの卵
（和白，御島海域）

○海岸等整備

市民が身近に海を感じられる遊歩道や，生きものに配慮した護岸等の整備を実施しました。

親水性をもたせた海岸
（香住ヶ丘地区）

3. 整備の基本方針

(1)「アイランドシティはばたき公園」の目指す姿（目標像）

本公園を含むエコパークゾーンは，150万の人口を抱える都心近くにありながら，豊かな自然環境が存在する貴重な空間であり，人と自然との共生を象徴する空間として整備します。

【環境の保全・創造】

①渡り鳥が利用する場

主としてシギ・チドリ類の休息場となることを目指します。

②エコパークゾーンの豊かな自然を実感できる場

エコパークゾーンで保全・創造された豊かな自然を目の前で実感できる場となることを目指します。

【市民の交流・学習】

③身近に自然とふれあえる場

身近に自然とふれあい，憩いや安らぎを享受できる貴重な空間として，多くの市民が利用する場となることを目指します。

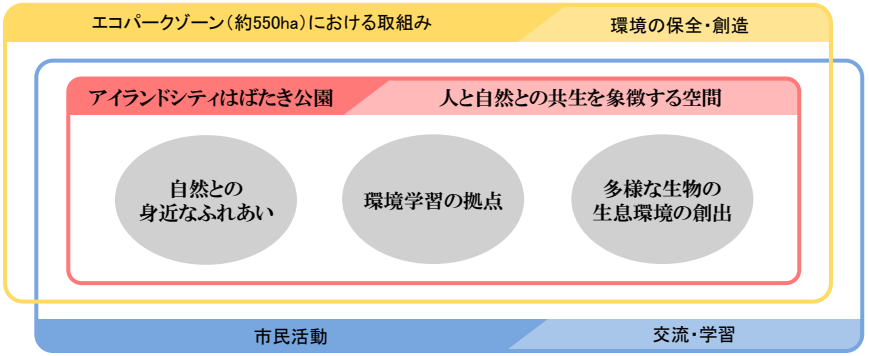
④環境学習の拠点

市民が，長年にわたるエコパークゾーンの取組みなどを，気軽に学び・体験できる環境学習の拠点となることを目指します。

【様々な活動の連携】

⑤多様な主体が関わる場

市民や企業，NPOなど，多様な主体が集い，連携して本公園の成長に向け，取り組む場となることを目指します。



(2) 基本コンセプト

『成長するアイランドシティはばたき公園』

～人と自然が共に成長し続けるために～

(3) 整備の基本的な考え方

①エコパークゾーンとの一体的な整備

本公園とエコパークゾーンの機能分担・連携

②「みんなで関わる」を実践する場所

市民参加型の公園づくり

③自然の成長を促す段階的な整備

基礎となる整備を行い，自然の成長を活かす順応的管理手法を導入

アイランドシティはばたき公園　基本計画（整備プラン）〔概要版〕

4. ゾーニングと平面図（整備イメージ）

身近に生きものを感じられる空間（自然を育てる・学ぶ）

① 自然の成長を学ぶゾーン
市民やNPO等，多様な主体が共働で自然形成に携わりながら，時間経過とともに自然が成長する過程を学習する空間を創出します。
【活動例】野鳥観察会，生物モニタリング

② 海の自然を学ぶゾーン
海生生物や野鳥の生息環境を創造し，観察等を通して，海域の生物多様性や環境保全の重要性について学習する空間を前面海域に創出します。
【活動例】アマモ場づくり，生きもの観察会

自然に親しむ空間（人が楽しむ・にぎわう）

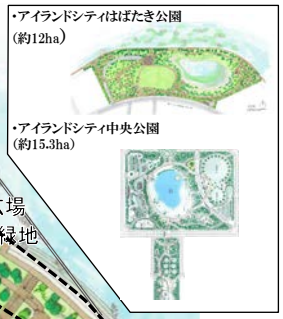
③ 海辺に親しむゾーン
遊歩道と緑を配置し，海辺を感じ親しみながら歩きたくなる空間を水際線に創出します。
【活動例】市民による植樹，家族で散策

④ 自然を楽しむゾーン
訪れる人々の交流が図られるとともに，エコパークゾーン全体を一望したり，休息やピクニックなどを通してくつろぐこともできる空間を創出します。
【活動例】眺望（ピクニック），遠足

※本公園全体で，「環境学習・市民交流拠点機能」を創出していきます。

※自然環境に配慮し，バリアフリーやユニバーサルデザインを考慮しながら，来園者が心地よく利用できる施設の充実を図ります。

○アイランドシティ中央公園と比較



5. 基本整備計画

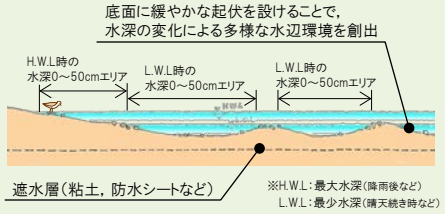
(1) 造成計画

○擁壁等をできるだけ減らした，より自然に近い起伏とします。
○湿地は，飛来する野鳥が，公園利用者や周辺住宅の住民から見下ろされないよう，周囲より地盤を高くします。

(2) 湿地整備の考え方

○シギ・チドリ類の休息場機能を確保するため，水面の面積約1ha（最大時），深さ0cm～50cm程度の，雨水を供給源とする湿地を整備します。

○シギ・チドリ類の生態を考慮し，人の立ち入りを制限するとともに，見通しを確保するため，地盤を緩勾配とします。

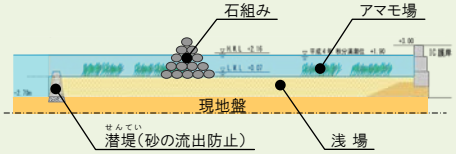


(3) 海域環境の改善

○本公園の前面海域に，航路の浚渫土砂を有効活用した浅場造成を検討します。

○浅場には，豊かな生物の生息環境を創造するアマモ場造成や，野鳥が休息できる石組みを設置します。

○石組みは，形状や設置位置の工夫により，採餌場及び様々な海洋生物の生息環境が創出されるよう努めます。



○和白海域において，主に夏季に発生する貧酸素水塊の発生抑制に向け，航路の浚渫土砂を有効活用した覆砂等の底質改善策を検討します。

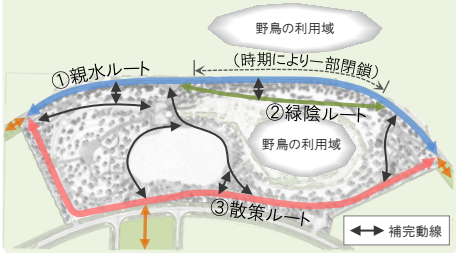
(4) 動線計画

○野鳥の飛来時期に一部封鎖することも想定し，多様なルートを設けます。

①親水ルート
海を身近に感じるルート

②緑陰ルート
・木々に囲まれ，憩いや安らぎを感じるルート
・野鳥への配慮（緑陰により人の気配を消す）

③散策ルート
四季の花木を愛でながら散策できるルート



(5) 植栽計画

○ゾーニングし，特性に応じた樹種の選定を行います。

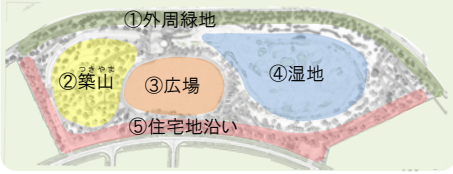
①外周緑地
耐潮性のある樹種を選定（市民植樹を検討）

②築山
視点場からの眺望を確保できるよう樹種を選定

③広場
多目的な活動ができる「はらっぱ」となるよう樹種を選定

④湿地
自然の成長に委ね，植栽は行わない（自生は除く）

⑤住宅地沿い
高質な空間となるよう，四季の花木を織り交ぜた樹種を選定（記念植樹を検討）



(6) 防犯への配慮

○植栽にあたっては，極力中木を植えないなど，見通しに配慮した配植とします。
○園路については，長距離の一本道とならないよう適宜分岐を設けます。
○防犯カメラ等の設置について検討します。

アイランドシティはばたき公園　基本計画（整備プラン）〔概要版〕

6. 成長する「アイランドシティはばたき公園」の実現に向けて ～管理運営～

(1) みんなで関わる公園

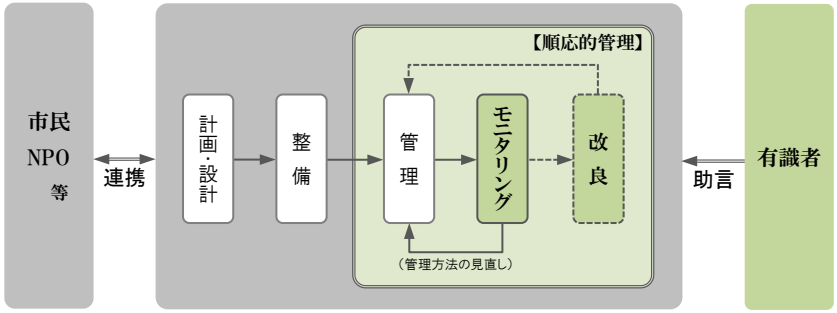
○魅力的な公園をつくり，育てていくためには，市民やNPO，企業等の多様な主体と連携し，持続可能な管理運営の仕組みづくりが必要です。

＜イメージ＞

(2) 順応的管理手法の導入

○本公園の一部エリアでは，基礎となる整備を行ったうえで，野鳥の飛来状況や自然の成長等をモニタリングしながら，自然の成長を活かす「順応的管理手法」を導入します。

○有識者等から助言を受けながら整備効果の検証を行い，管理方法の見直しや，必要に応じて施設の改良を行います。



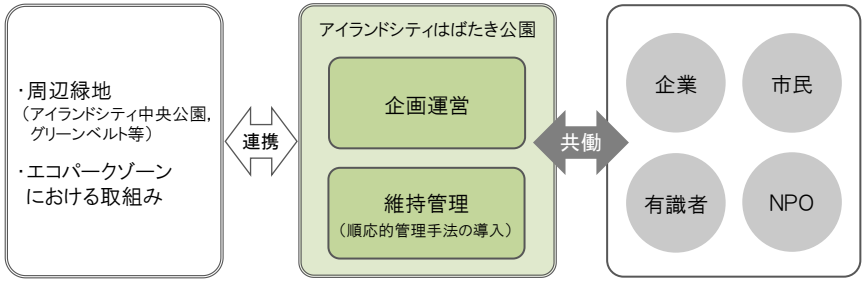
＜順応的管理のイメージ＞

(3) 身近な環境学習の拠点づくり

○150万都市に存在するエコパークゾーンの豊かな自然を，市民が体感できるよう，魅力ある環境学習プログラムやイベント等を充実していきます。

○企画運営にあたっては，エコパークゾーン全体の活動と一体となった取組みが必要です。

○アイランドシティ中央公園やグリーンベルトなど，周辺緑地と連携した企画運営を検討します。



＜管理運営イメージ＞

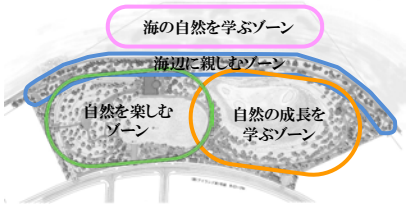
7. 成長する「アイランドシティはばたき公園」の実現に向けて ～事業手法～

(1) 段階的な整備

○最初に着手する「身近に生きものを感じられる空間」については，はじめから全てをつくり込まず，順応的管理手法により，成長させていきます。

○次に，「自然に親しむ空間」について，道路などの周辺基盤整備等に合わせながら，順次整備・供用していきます。

○ガイダンスセンターについては，野鳥の飛来状況や自然の成長，公園の利用状況等を見極めながら，整備時期や施設規模等について検討します。



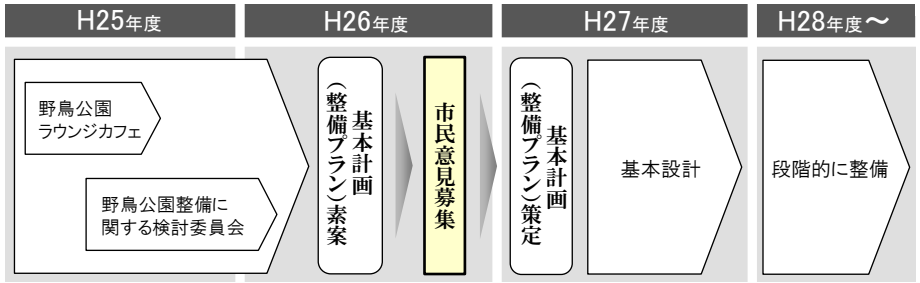
＜ゾーニング図＞

ゾーン		（概ね10年間）ステップ①	ステップ②	ステップ③
身近に生きものを感じられる空間	自然の成長を学ぶゾーン	湿地	成長（※順応的管理）	
	海の自然を学ぶゾーン	石組み，浅場		
自然に親しむ空間	海辺に親しむゾーン	外周緑地		
	自然を楽しむゾーン		広場，築山（つきやま）	ガイダンスセンター
実現する活動プランの例（ラウンジカフェの成果）		・野鳥観察会 ・生きもの観察会 ・市民による植樹	・眺望（ピクニック） ・家族での散策 ・周辺小学校の遠足	・野鳥に関する講演会 ・ボランティア養成講座 ・管理運営に関する集会

＜段階的整備のイメージ＞

(2) 市民参加，民間活力の導入

○野鳥や環境に対する市民の関心を高めるため，整備段階からの市民参加を図るとともに，ガイダンスセンターの整備や，カフェ等の利便施設の導入にあたっては，民間活力の導入を検討します。

＜イメージ＞

8. 今後のスケジュール